

1. 目的

- ・在宅医療における訪問診療や訪問看護，介護サービス等の実際を，病院の職員に知ってもらうことで，在宅での患者の療養，生活について具体的なイメージを持つことができる。
- ・患者の円滑な入退院に向けて，在宅チームとのシームレスな連携の促進を図る。

2. 今年度の開催状況

◆内容 グループワーク（ワールドカフェ形式）

テーマ「スムーズな在宅への移行と急変時等の病院との連携」

～どのような情報があったら良いでしょうか？～

ミニレクチャー

在宅療養への移行時における連携について/柏市医師会副会長 古賀先生

開催病院	開催日	参加者	満足度 10段階(10＝満足)
国立がん研究 センター東病院	令和6年11月5日(火) 19時～20時30分	117名 病院65名:医師 23名,看護21名,薬剤師5名, 管理栄養士6名,リハビリ職5名,MSW5名 在宅52名:医師 10名,訪問看護師14名, 薬剤師5名,管理栄養士6名,リハビリ職 4 名, ケアマネジャー 9 名,MSW等 4 名	病院：平均：8. 5 在宅：平均：8. 5
名戸ヶ谷病院	令和7年2月21日(金) 19時～20時30分	69名 病院35名:医師6名,看護17名,薬剤師1名, 管理栄養士1名,リハビリ職5名,MSW5名 在宅34名:医師 7名,訪問看護師10名, 薬剤師1名,管理栄養士2名,リハビリ職7名, ケアマネジャー5名,MSW2名	病院：平均：8. 7 在宅：平均：8. 4

◆結果 実施直後アンケートより

国立がん研究センター東病院	在宅チーム
・在宅に携わっている多職種のかたの生の意見をきけたのがよかった。 ・自分も地域医療者の1人であることを実感できた。 もっとこのような会に参加したい。 ・院内だけでなく、在宅からの視点で意見を直接きく良い機会となり、とても参考になった。	・病院側の視点等を聞けて勉強になった。患者、家族の幸せを守るために大切にしたいことは同じだなと思ってとても嬉しかった。 ・色々な方と出会え、意見を聞く事ができ勉強になった。 ・病院と在宅チームで必要な情報がほぼ同じであることが理解できた。
名戸ヶ谷病院	在宅チーム
・実際に在宅医療に携わっているスタッフと交流できたので連携のイメージがついた。 ・多職種との意見交換は同じ項目でも掘り下げると内容に差があり、良かった。 ・在宅の方々の率直な意見を聞くことができた。	・病院で行う研修会は今回も非常に有意義だった。 ・急変は怖い…けれど、知りたい情報をまとめておくことの大切さを学んだ。 ・病院側が求める情報が明確となり、大変参考になった。

3. 次年度の方方向性

市内全域の医療機関に意向確認し開催病院を検討